

イデックスオイルレポート ~For a week~

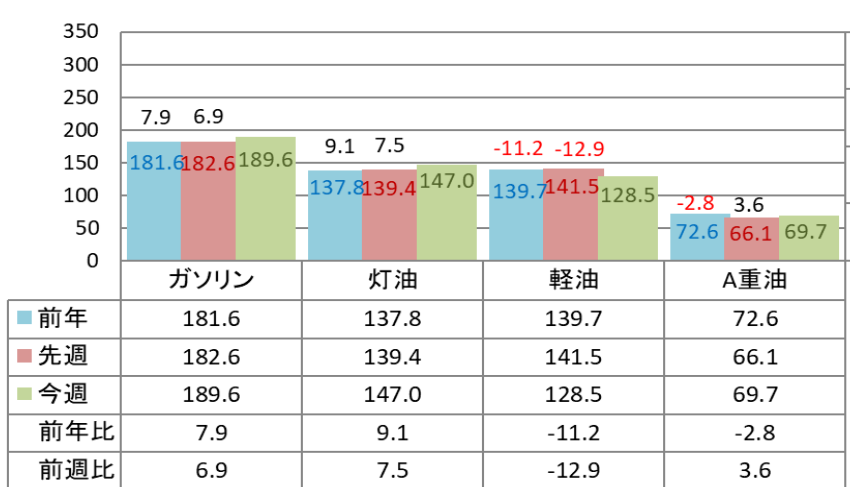
2021/3/26作成 (株)新出光

【概況】 <欧州でのロックダウンへの懸念により上値重く>

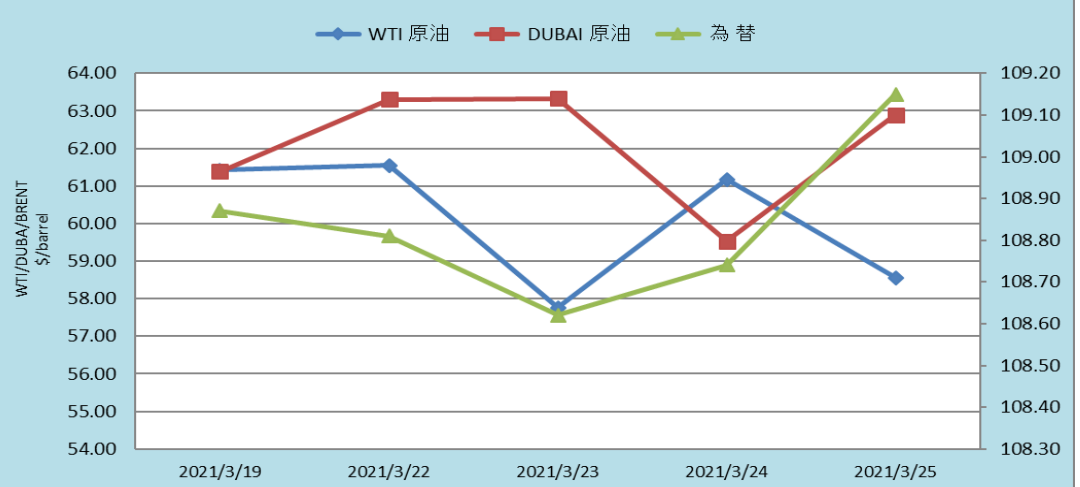
- 19日、欧州医薬品庁(EMA)は18日、血栓発症例をめぐり問題となっていた英アストラゼネカ社の新型コロナウイルスワクチンを「安全」と結論付けました。ただ、感染収束にはほど遠い中、ワクチン供給の混乱で景気回復が遅れ、エネルギー需要の見直しにも悪影響が及ぶとの警戒感根強く、売り地合いが継続しています。
- 22日、フランスは20日、4週間の予定で、パリ首都圏を含む一部地域で新型コロナ対応の新規制を開始しました。昨年秋からロックダウン(都市封鎖)が続くドイツも一段の規制延長を検討しているとされ、市場ではユーロ圏の経済正常化の遅れに対する懸念が広がっています。ただ今年下半期のエネルギー需要の回復期待も根強く、相場はもみ合っています。
- 23日、英国の変異ウイルスが猛威を振るうドイツの連邦・州政府は23日、感染拡大阻止のためのロックダウン(都市封鎖)の期限延長を発表しました。欧州ではワクチン接種も遅れており、エネルギー需要見直しに対する楽観的な見方が後退しています。相場は先週までの強地合いから一転、週間で6.4%下落しています。
- 24日、エジプトのスエズ運河で23日、大型コンテナ船が座礁し、多数の船舶が通れない状態となっています。原油運搬にも支障が出るとの見方が広がり、前日の急落の反動から原油が上昇しています。また米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間統計では、原油在庫が前週比190万バレル増と、市場予想の30万バレル減に反して積み増しとなったようです。これを受けて、需給の緩みを意識した売りが出て、発表後はやや上げ幅を抑えました。
- 25日、エジプト・スエズ運河で起きた大型船の座礁事故を手掛かりとした前日の騰勢は一服し、船舶の立ち往生は解消されていないものの、コロナ禍で足元のエネルギー需要は弱く、影響は限定的との見方から、相場は朝方にかけてじりじりと下落しました。

3月26日 17:00現在 WTI原油 59.80ドル 為替 1ドル 109.33円

国内石油製品在庫 3月20日時点



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ



次回元売変動予測

4/1~ 元売変動予測

ガソリン	➡	-2.5~-2.0
灯油	➡	-2.5~-2.0
軽油	➡	-2.5~-2.0
A重油	➡	-2.5~-2.0
LSA	➡	-2.5~-2.0

※現段階の原油コストによる予想です。

【製品卸価格】 <先行値下げと枠消化により市況膠着>

《今週》今週の元売り仕切り改定はENEOS・コスモ「-1.5円」、出光シェル「-2.0円」の値下げでした。改定は異なりましたが、市況はすでに今回の改定の値下げを見越して先週から月間リンク玉を筆頭に下がってきていました。改定後月間リンクの玉や週決めの玉もこれ以上の値下げには困難を極めるために市況は膠着状態です。

《3月27日以降》来週の元売り改定は現状の原油コストで先週に引き続き「-2.5~-2.0円」の大幅値下げ予測です。次回の改定日が月替わりでかつ年度初めになります。月初から月間リンク玉の売り込みが始まらないか、リセット値下げとならないかを不安視する声が挙がっています。週末は一部で消化売りの値下げが見受けられるものの、大きな相場の動きはなく、枠消化に目途がついたディーラーも徐々に散見されるようになりました。ただ次回改定の値下げや資金繰りの面でも4月以降にオーダーを先送りする買い手もいますので、需要面の買い気は鈍いようです。特に灯油は需要期を逸してしまっているために売りが強く、市況も下がりやすい状況です。

【トピック】 <スエズ運河で大型コンテナ船座礁>

世界の海上輸送の要衝であるエジプトのスエズ運河で23日大型コンテナ船が座礁し、船舶の航行を妨げています。座礁したのは台湾のエバーグリーン・マリンが運航する全長400メートルのコンテナ船「エバー・ギブン」で、日本の国土交通省によると今治造船グループの正栄汽船が所有しているようです。同運河はアジアと欧州をつなぎ、年間で二万隻近くが通行しています。復旧に時間が掛れば、世界の供給網の新たな重荷となり、世界経済の攪乱要因にもなりかねません。待機している船もこのまま待ち続けるか、南アフリカを大回りするかの判断を迫られますが、大回りするとコンテナ船では航海期間が約一週間伸びてしまうため、備船費の上昇等を考慮すると現実的には難しいようです。この影響より原油輸送に伴う供給への懸念から原油相場も一時上昇しました。